

## 平成 30 年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4 年間の目標 (平成 28 年度策定)	1 年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>○複眼的多面的にもものを見て、深く思考し、論理的で批評力・判断力・洞察力・行動力に富む生徒を育む教育課程に整備する。</p> <p>○高度で知的好奇心を刺激する授業を教員・生徒の相互で作り上げるために、組織的な授業改善を推進する。</p> <p>○各教科及び総合的な学習の時間の取組みを通して、歴史文化への造詣を深め、また、課題設定・解決力・表現力を育む。</p>	<p>①学力と進学実績の向上を目指し、具体的な評価視点・水準を確認し、さらなる効果的なカリキュラムの研究を行う。</p> <p>②グローバル教育研究推進校としての取組の総まとめとして、取組みの効果的な実施と全校的な成果還元を図る。</p>	<p>①30 年度入学生のカリキュラム及び県の示す新たな指標に基づいて、生徒の進路希望を実現するために、効果的な指導に取り組む。</p> <p>②全学年で取り組む英語資格認定試験を通して、一層の生徒の英語力向上を図り、キャリア形成に資する。</p> <p>オーストラリア姉妹校交流事業及びカナダ海外語学研修事業に参加する生徒の経験を通して、さらなるグローバル教育の機会となるよう工夫する。</p>	<p>①主体的、対話的、深い学びの実践に組織的に取り組めたか。</p> <p>他校参加型公開研究授業を効果的に実施できたか。</p> <p>生徒による授業評価の項目 4 について全教科平均で 3.1 ポイント以上の結果になったか。</p> <p>長期休業中に発展的な補習が実施できたか。</p> <p>②英語資格認定試験に取り組むことが、生徒の英語力の向上に結びつき、キャリア形成に役立ったか。また、卒業時に英検 2 級程度の力が身についたか。</p> <p>オーストラリア姉妹校交流事業及び海外語学研修事業を効果的なグローバル教育の機会とすることができたか。</p>
2	生徒指導・ 支援	<p>○社会性・協調性・体力・行動力・自己管理能力や人権意識を養うために多様な経験をさせ、生徒が意欲的・主体的に人間形成を行うことができる環境を整える。</p> <p>○一人ひとりの個に応じた支援を充実させる。</p>	<p>①生徒の自己有用感を醸成する効果的な学校行事の活用を図る。</p> <p>②一人ひとりの生徒状況を把握するためにきめこまかな生徒情報の共有化を図る。</p> <p>③生徒の人権意識を高めるための効果的な支援を行う。</p>	<p>①生徒一人ひとりが学校行事における自己の役割を理解し、創造力を発揮して取組めるような支援方法の工夫を図る。</p> <p>②課題を抱える生徒情報の共有と組織的な支援を図る。</p> <p>③SNS に関わるトラブルの未然防止、LGBT への理解等人権を意識させる機会を設定する。</p>	<p>①学校行事の過程や終了後に生徒たちの主体性・自己有用感が高まったか。</p> <p>②生徒情報交換会、学年会を通じて定期的な生徒情報の共有が実施されたか。</p> <p>③生徒の人権意識を高める機会を設定できたか。</p>

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
3	進路指導・支援	○難関国公立大学・難関私立大学への合格者数を増加させる。	①生徒一人ひとりがグローバルな視点を持ち、自己実現に向けて高い目標を掲げ、最後まで挑戦を継続できるような支援体制を確立する。 ②総合的な学習の時間やLHRを効果的に活用するとともに、長期休業期間中の時間を活用したきめ細やかなキャリア支援体制を構築する。	①生徒自身に将来の夢を実現していくためのショートゴールを設定させ、定期的に達成度を確認できる仕組みを作る。 ②総合的な学習の時間やLHRを利用し、適切な進路選択ができるよう情報提供を行っていく。 ②長期休業中においては、講習を設定し、生徒の到達度に応じた学習環境を構築する。	①模擬試験を各学年効果的に設定し、関連する講演会等を企画することができたか。 ①FINE SYSTEMの稼働率を上げるため、ライセンス数を2倍に増やし、面談等で個に応じた進路指導が適切に行われたか。 ①進路支援室や自習室等を整備し、生徒の学習環境を整えられたか。 ②長期休業中における講習等が適切に設定されたか。
4	地域等との協働	○保護者・地域・大学・分教室との連携・協働による教育を推進する。	①地域・保護者等と連携した生徒主体の活動を支援する。 ②藤沢養護学校分教室との交流を継続的に行う。	①「かまくら学」を軸にした地域との協働による体験活動のさらなる充実と生徒のプレゼンテーション能力の向上を目指す。 ②授業や学校行事などを通して、分教室と生徒間の交流・理解が深まるように支援する。	①生徒の積極参加を促す地域との協働メニュー提示が効果的になされたか。 ②分教室との交流を通して生徒間の協力関係が築けたか。
5	学校管理 学校運営	○すべての職員が一丸となって学校改革に臨み、魅力ある学校づくりに組織的に取り組む。	①事故不祥事に関する情報の共有化・校内研修体制の充実を図ることによって、事故・不祥事0件の継続を目指す。 ②職員・生徒が一体となって災害に強い学校づくりを行う。	①効果的な研修会を実施する。 グループを主体とした事故防止会議の計画的な実施を図る。 私費会計の適正な執行を図る。 ②様々な状況を想定した避難訓練、DIG訓練等を実施する。 活用しやすい防災マニュアルの見直しと職員・生徒への共有化を図る。	①時宜に適した効果的な研修会が開けたか。 定期的な点検方法が構築できたか。 各グループが主体的に事故防止会議を実施したか。 私費会計の執行が適正に実施されたか。 ②避難訓練、DIG訓練を実施し、安全への意識を高め、帰宅グループ、帰宅経路等の確認ができたか。